

全国協議会 ニュース

2022年3月1日発行 第355号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

地区普及広報委員 説明員研修会を受講して

2022年2月22日(火)13時から「日本骨髄バンク令和3年度地区普及広報委員・説明員研修会」のZoom配信があり受講しました。

広報渉外部の鈴木慶太さんの進行で始まり、まず小寺良尚理事長と小川みどり事務局長の挨拶があり、続いて関由夏地区調整部長から「患者さんとそのご家族からの感謝の手紙の紹介」が3通ありました。特に「…コーディネーターさんが移植時に目に見えている人だけでなく、何百人もの人が動いているとおっしゃっていました…」という言葉が心に残りました。その後、小島勝広報渉外部長から「骨髄バンクの現状」の説明がありました。最近5年の登録活動の結果18~22歳のドナー登録者数が大幅に増えていることが印象的でした。今後も若年層を軸としたドナー登録の拡大にまい進したいと思います。

続いて中尾るかドナーコーディネーター部長の「ドナーコーディネートの現

状」の説明がありました。コロナ禍で2020年度は、前年に比べコーディネート件数が1,107件と1割減りましたが、ドナーに対する感染予防対策を取った結果2021年度は平年並みに回復したとのこと。添付図のように「コロナ理由のご辞退の例」は色々あったようですが、気持ちがなかったというのではなく、苦渋の選択をされたと判断されているとおっしゃっていました。続いて鈴木さんから「ドナー登録会の運営と実施」の説明後、広報渉外部の末岡弘光さんから「登録会現場での円滑な説明業務の実施について」、「クレームになる事例」と「クレームになった事例」の紹介と対応策について説明がありました。クレームについては、日赤さんから指摘された事項をまとめたもので、なるほどどうなずく点もあります。ただ私は多くの献血併行型登録会会場で逆に説明員をされている方から日赤さんに対するクレームも結構聞いています。一方通行ではなくこれ

についてもまとめられ、日赤さんに連絡していただきたいと思います。登録会はコミュニケーションを十分にを行い、相手の立場に立って行動することによって、初めて気持ちよく運営されると思います。

引き続き神奈川の会の村上忠雄会長(全国協議会副理事長)から「神奈川県における骨髄ドナー登録について」の講演がありました。「課題・悩み」、「その対応」、「関係団体との協力、連携による骨髄ドナー登録の推進、説明員養成講座」、「献血併行型ドナー登録の流れ」について説明がありました。全国協議会の関東甲信越地区ブロックセミナーで毎年勉強会を開いていますが、資料による詳細説明で新たに参考になる点も見つかり、大いに有意義でした。

(千葉骨髄バンク推進連絡会 会長 梅田正道)

コロナ理由のご辞退の例

- 感染のリスクから、コーディネートのために病院へ行くのが不安
- 仕事柄、感染リスクのある病院に行くことは難しい(保育の仕事など)
- 同居家族にお年寄りがいるので、ためらいがある
- 妻の父から「コロナのリスクがある中、家族のことを大事に考えて」と反対された
- コロナの影響で仕事が忙しくなり、時間が作れない
- 自分自身がコロナ対応をしている保健師。抜けると困る、と、言われた

東京マラソン 2021 大会 2年ぶりに開催

コロナ禍の影響を受け、昨年10月に予定されていた東京マラソン2021大会が延期となりましたが、ようやく3月6日(日)に開催されることになりました。

全国協議会が東京マラソン2020大会の寄付先団体として参画してからは2年がたちます。本来であれば、大会を盛り上げるための前日祭への参加や当日の沿道応援、完走後のホスピタリティなどを実施することでチャリティランナーの皆様へ直接感謝の気持ちをお伝えするところですが、今回は

残念ながら開催できません。

当日は、26名のチャリティランナーの皆様の42.195キロ完走を陰ながら応援させていただきたいです。また、関係者としてもこの大会がコロナ禍の下で行われる大会としてランナーにとって良い思い出となること、また、来年の2023大会では、今度こそチャリティランナーの皆様へ直接感謝の気持ちが伝えられることを心から願っています。

全国骨髄バンク推進連絡協議会は、東京マラソン財団チャリティ RUN with HEART の寄付先団体です。



骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(2月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2022年1月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,121	2,452	538,435	882,873
患者登録者数	206	213	1,800	63,557
移植例数	98 (28)	78 (15)	—	26,299 (1,470)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■1月の区別別ドナー登録者数

献血ルーム/845人、献血併行型集団登録会/1,552人、集団登録会/0人、その他/55人

■1月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,022人/20代 84,861人/30代 136,577人
40代 221,208人/50代 92,766人

■1月の20歳未満の登録者 187人

■1月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数: 1,421件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

クラウドファンディングの経過報告と 更なる協力をお願い

第一目標 300 万円達成！ 移植患者さん支援のため、更なるきち子基金の積み増しを目指して第二目標 1,000 万円を掲げ全力で取り組みます！！ 更なる協力をお願いします！！

2022年2月14日(月)にクラウドファンディング「白血病患者さんに移植費用を届けたい。きち子基金継続に協力を！」がスタートしました。加盟団体の皆様、医療関係の皆様をはじめとして本当に多くの皆様にご協力いただき、心より感謝しております。おかげさまで公開後6日目に当初の目標300万円を達成しました。しかし、きち子基金の財政的ぜい弱さが根本的に解決されたわけではないため、この機会にできるだけ基金の積み増しを実現しようと1,000万円のネクストゴール(第二目標)を設定しました。ぜひとも達成したいと思います。3月31日(木)の最終日まで残り1カ月を切りましたが、皆様の更なるご協力を賜りたく、よろしくご協力申し上げます。

ありがたいことに多くの方に様々な形でご協力いただいています。その一部を報告いたします。

まず、ハンドブック「白血病と言わ

れたら」執筆者の先生方。約50名の執筆者の先生方にメールでご支援と情報拡散の協力をお願いしたところ、ご多忙の中、院内や学内で情報拡散することを約束してくださいました。そして日本造血・免疫細胞療法学会の2月17日(木)のメールニュースにもクラウドファンディングの記事が掲載されました。学会理事長である豊嶋崇徳先生のお声がかりによるものです。

各媒体関係の動きとしては2月15日(火)の東京新聞夕刊に、社会面のトップで取り上げられました。その影響で同日夕方、寄付の申し込みが異様なペースで増えました。このほかにもいろいろな媒体にも取り上げられました。

また、加盟団体の皆様からも「〇〇の施設にチラシを置いてもらう」、「影響力ある著名人に支援のお願いと情報拡散をしていただく」などのご連絡を頂いております。

その結果、今まで血液の病気に関す

る知識や関心を持たなかった多くの方から「きち子基金のことを初めて知りました。ぜひ存続させてください」、「白血病患者さんは本当に大変な思いをされているのですね。患者さんのために役立ててください」、「患者さんや家族を支えるのは医療者だけではない。そう感じられることが、診療の励みになります」という温かいメッセージとともにご寄付を頂きました。

患者さんを想う気持ちが一つとなって、大きなパワーが生まれていることを実感します。ご協力いただく形は寄付だけではありません。口コミでも、SNS発信でもよいので、このプロジェクトの情報を一人でも多くの人に届けていただきたいと切に願っています。

現在、この原稿を書いている2月28日時点では次のような経過となっています。

● 支援者 214人

● 寄付総額 3,968,000円

今回、関係者以外の多くの方にきち子基金の意義をご理解いただきました。これにより助成申請件数が大幅に増加する可能性もあります。それに備えるためにもぜひ基金の更なる積み増しを目指します。



新宿中央公園で予約方式の 献血併行型登録会開催

東京新都心ライオンズクラブや西新宿^{つのだ}角三町会が主催する東日本大震災支援イベントは、被災した翌年の2012年から毎年3.11に近い日曜日に新宿中央公園水の広場で開催されています。近隣のライオンズクラブも応援し、テントや出店、バザーなど楽しいイベントなのですが、2020年より新型コロナウイルス感染症拡大のため、イベントは中止となりました。

しかし昨年2021年は、コロナ禍で献血やドナー登録の減少を憂慮した東京新都心ライオンズクラブの皆さんが東京都赤十字血液センターに交渉し、献血バスの配置にこぎつけました。事前予約登録方式で「献血&ドナー登録会」を開催し、献血94名、骨髄ドナー

登録21名と素晴らしい実績を残しました。

そして今年も、昨年同様イベントは中止しますが、「献血&ドナー登録会」を1カ月順延して4月10日(日)に開催する運びとなりました。東京新都心ライオンズクラブ・東京都赤十字血液センターと全国協議会との打合せで、今年も献血バスを2台配置し、事前に申し込みを受け予約一覧で時間配分をして、献血とドナー登録を行います。献血の待ち時間を極力なくし、また骨髄ドナー登録もスムーズに行えるよう、東京の会ははじめ近隣のボランティア団体から説明員を配置します。

この事前予約方式は、待つだけの献血バス配置とは違い、当日の献血・ドナー登録数が確実に見込めます。それだけに事前の宣伝や声掛け、確実な予約が必須となりますが、昨年はライオ

ンズクラブや町内会の努力で多くの協力者を得ました。今年も事前の準備を十分に行い、昨年同様の登録者を集めるべく、予約リスト作成を行います。ぜひ皆さんもご協力をお願いいたします。

日時：2022年4月10日(日)
9時30分～16時
場所：新宿中央公園 水の広場
(東京都新宿区西新宿2-11)
予約受付：03(5823)6360(全国骨髄バンク推進連絡協議会事務局)



昨年3月14日(日)の登録会の様子

人を助けられるような人になりたい。 作文につづった感謝と決意

全国協議会の役員が SNS の記事に目を奪われました。お姉さんが骨髄移植を受けた経験から様々なことを感じ、骨髄バンクのコーディネーターを志望していると。第 17 回全国高校生・高等専修学校生『私のしごと』作文コンクール（主催：NPO 法人仕事への架け橋）で最高賞である文部科学大臣賞を受賞された宮城県農業高等学校 2 年生目黒花織さんの作文です。今回目黒さんからこの作文を書かれたきっかけなどを寄せていただきました。なお、作文全文は主催者のサイトでお読みいただけます。 <http://www.senmon.co.jp/shigoto/top.html>

「仕事作文コンクールで最優秀賞を受賞したよ」と言われたとき嬉しさと支えてくれた方々への感謝の思いでいっぱいになりました。

姉の病気が発覚したとき私は小学四年生だったため、自分では知らなかった家族の想いを形に残したいと思い作文を書く決意をしました。書く中で伝えたかったことが三つあります。一つ目が家族です。病気に負けない家族の想いを書いていますが、同じ苦しみを味わっている人にも希望は捨てないでほしいという願いがあります。

二つ目がヘアドネーションです。薬の影響で髪の毛が抜けることは女性にとって辛いことです。心の負担を少しでも減らしたいと思いボランティアを続けています。とても簡単に挑戦できるので思い切ってイメチェンしたい人には挑戦して欲しいです。

三つ目が骨髄バンクのコーディネーターです。骨髄を提供してくれる人に寄り添いながら、病院などの手配を行い、不安、疑問にも優しく対応してくれる職業です。ドナーだけではなく、多くの人が一人の命を救うために働い

ている現状を知って欲しいです。

最優秀賞というものを頂いたおかげで様々な場所で骨髄バンクについての話を増える機会が増えました。白血病患者やその家族がどんなことを思い、経験しているのかちょっとでも興味を持ってもらって知ってもらうことがスタートだと考えています。

私の姉は運がよく適合者が見つかり骨髄液を提供して頂きましたが、今でもドナーは救いの手を求められています。しかし、適合したとしても仕事や家庭の事情で提供を断られてしまう場合もあるからこそ、今よりも倍の人数に骨髄バンクに登録して欲しいのです。助かる命が目の前にあるのなら、私は人を助けられるような人になりたいです。



目黒花織さん

山口雄也さんの想いを受け継ぐパネル展 (京都)



京都駅前献血ルームでの山口さんのパネル展

2月13日(日)京都市にある献血ルーム四条と献血ルーム京都駅前で2月7日(月)から28日(月)まで開催された山口雄也さんのパネル展示を見に行ってきました。

山口さんは1997年に京都市で生まれ、2016年京都大学工学部地球工学科に入学されました。その年の11月に希少がん「胚細胞腫瘍」が見つかり

切除手術を受け治療しますが、その後2018年6月には「急性リンパ性白血病」と診断され、10月に骨髄バンクを通じて骨髄移植を受けられました。その後、再発を繰り返しましたが闘病中も勉強を続け、2021年4月京都大学大学院工学研究科に入学されました。最期まで諦めず闘病されていましたが、病には勝てず、入学されて早々の同年6月6日逝去されました(享年23歳)。

闘病の様子をつぶやいた Twitter のフォロワーは8万人以上、ブログでもユーモアを交えながら情報発信を続けるとともに、『「がんになって良かった」と言いたい』(徳間書店)を発売されるなど、同様の境遇にいる方々や

家族の方々との繋がりを通じて、献血や骨髄バンク登録の重要性を精神的に訴えて来られました。その様子は、日赤 NEWS2022 年 1 月号の特集、「生きたかった、だから闘った」でも紹介されています。

私は少しでも多くの方々がこの展示を見て、輸血を待つ多くの患者さんのため献血を続けていただくとともに、献血の輪がさらに拡がり、彼のような白血病と闘う患者さんのためにも、骨髄ドナー登録者を増やすことの大切さを強く感じました。山口さんご本人のメッセージは【日本赤十字社】YouTube チャンネル「生きたかった、だから闘った～白血病で早世した山口雄也さんのメッセージ～」でもご覧いただけます。(副理事長 山村詔一郎)

全国ボランティアの集い 今年もハイブリッド開催!

全国骨髄バンクボランティアの集いをハイブリッド配信いたします。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から昨年に引き続き集合無しでの開催となりますが、全世界どこからでもご覧いただけます!

詳しい内容は次号で発表予定です。楽しみにお待ちください!

開催日: 2022年5月28日(土) 13時から

開催方法: Zoom ウェビナーでの配信

新型コロナウイルス感染拡大により 白血病フリーダイヤル受付休止

患者さんとそのご家族のための患者電話相談窓口「白血病フリーダイヤル」を25年にわたり開設しておりますが、コロナ禍となつてから休止を余儀なくされています。2022年3月末までは感染拡大予防の観点から受付を休止させていただいております。

ご迷惑をおかけしますがご理解いただきますようお願い申し上げます。4月からの状況については当協議会のホームページでご確認ください。

各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

山形

「25周年記念いのちの贈り物」を上梓して

2019年5月、「骨髄バンクボランティアの集い in 山形」を無事に終えたと安堵したのもつかの間、思いがけないコロナ禍の余波を受けて、25周年記念事業が2021年に持ち越しとなり、記念誌の作成も遅れました。今後の指針にするためと25年間を振り返る作業に入りますが、25年間を知る会員がいないのです。総会議案書と小野寺の曖昧な記憶とメモ書き程度の日記だけ。そんな時、山形支部ニュース1号～15号、「ふれ愛の輪」ニュース1号～95号が助けてくれました。年度ごとにWordにまとめるところから始めました。

当初、専門の印刷会社に発注するつもりでしたが、「写真だけでもカラーにしたい」と気持ちが膨らみ、揺れ動きました。編集委員の草刈めぐみさん



が「出来るよ、自分たちで編集して、印刷だけ頼めるよ」と提案。パソコンの苦手な私がやっと作ったWordデータをメールでやり取りする中、レイアウトが崩れ写真や表が移動したり消えたりと、何度も会議を重ね修正し大変苦労しましたが、フルカラーにして正解だったと今は思っています。

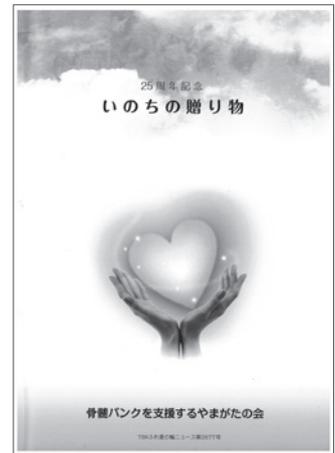
2022年2月19日、『未来につながる命と心のバトン』第1部骨髄バンクを支援するやまがたの会25周年記念式典及び記念誌「いのちの贈り物」完成披露、第2部医療講演会「多様化する造血細胞移植」に谷口修一医師（虎の門病院副院長・血液内科部長）を講師に迎え開催する予定でした。イベント広報のポスターを掲示いただく直前でしたが、新型コロナ感染者が山形県でも日に日に増えていくニュースを見て、中止も止むなしと決断しました。中止のお知らせ文は“ふれ愛の輪”ニュース96号、記念誌「いのちの贈

り物」と一緒に発送しました。

尚、東北ブロックセミナーも兼ねての事業（医療講演会）は、コロナが落ち着いてから改めてと思っています。記念事業のオープニングで丹波恵子さんに歌っていただく予定だった「マモの詩」は、次の企画でお願いしたいと考えています。

最後に、記念誌「いのちの贈り物」がたくさんの人々の目に触れドナー登録数が増え、患者さんの希望となるように願っています。

（骨髄バンクを支援するやまがたの会 会長 小野寺南波子）



沖縄

移植1万例記念桜の開花



沖縄県では1月に入ると桜開花のニュースが流れます。本島北部の名護市や本部町等で咲き始めだんだん南下し、那覇市を含む南部では2月中旬頃に満開になります。今年も移植1万例記念桜が開花しました。

骨髄バンクを介した移植1万例とさい帯血バンクを介した移植5千例を記念した桜の植樹は、沖縄県では2009年2月3日に那覇市県庁内敷地で多くの関係者やマスコミが参加して行われ、全国リレー植樹のスタートでした。毎年桜の時期になると開花状況を確認

していましたが、最初に花が咲いたのは8年目の2017年2月でした。その後は毎年開花を確認してきましたが、今年も開花が確認できました。

植樹したころは細かった幹も太くなり、しっかりと大地に根を下ろしています。また、植樹の趣旨を書いたネームプレートは地面に立てた部分が朽ちてしまいましたが、説明版の部分は桜

に固定され読める状態になっていました。誰かが世話をしてくれていると思われ、うれしく思いました。

今年も桜まつり等のイベントが中止となり、人流も制限され、少しさびしいシーズンになりました。来年は、満開の桜を楽しみたいです。

（沖縄県骨髄バンクを支援する会 代表 上江洲富夫）

心からのご寄付に感謝申し上げます ●1月21日～2月20日(敬称略)

●一般	現金 5,000円	株式会社ナルックス	
むさし野アンサンブル	現金 2,000円	現金	7,762円
現金 5,900円	前嶋 真理子	現金 2,000円	
山梨県骨髄バンクを推進する会	現金 2,000円	現金 10,000円	コスモ石油労働組合
現金 20,000円	梅沢 みどり	現金 10,000円	現金 1,212円
飛田 行康	現金 10,000円	国際スペースメディカル株式会社	フランス亭
現金 20,000円	現金 200,000円	現金 200,000円	現金 7,403円
匿名	現金 3,000円	●志村大輔基金	姫路中央病院
匿名	現金 10,000円	山先 恵子	現金 9,390円
匿名	現金 10,000円	石橋 もと子	現金 23,647円
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金		●募金箱	●つながる募金
公益財団法人		株式会社クスリのアオキ	現金 15,705円
大原記念倉敷中央医療機構		現金 638,366円	●キモチと。
現金 7,601円		株式会社マルト商事	現金 30,738円
魚住 清三郎	現金 10,000円	現金 79,048円	●お宝エイド
ニシコオリ トモコ			現金 21,231円

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会